



三 富 重 子

我が家の捨て犬

推定年齢5歳くらいの雄犬が、近くの竹の子公園に鎖でつながれて捨てられていました。2ヶ月くらい餌を求めて徘徊し、棒で叩かれたり、石を投げられたりして人間不信になり、寒さと飢えにおびえていたところを私と出会いました。餌をあげようと心に決めて、「お家においで」と言うと素直についてきて、もう6年が過ぎました。

竹の子公園にいたので、名前をタケ雄とつけました。夫は初め、タケを飼うことには大反対でした。我が家にはすでに13歳の柴犬がいたからで



←保護した当時のタケ（六年前）

→現在のタケ



す。しかしこの柴犬がタケのことを何かとかばってかいていました。その柴犬が16歳で脳梗塞を病み、死んでから寂しくなったのか、夫も心を開いてくれてタケを可愛がるようになり、最近では4歳になった初孫と朝晩一緒に散歩に行っております。

余談ですが、タケを拾ってから2年ほどして初孫が生まれた時、本当にこの世には神さまがいて、この孫を授けてくれたのではと思いました。孫と一緒に生きて行かれることを素直に感謝せずにはられない今日この頃です。

我が家の猫騒動

平成18年の10月頃から、生後2か月くらいの子猫6匹が我が家の前の道路に出てきて遊ぶようになり、それが我が家の前の駐車場へ移動し、お腹をすかせて餌をねだってくるようになりました。なんとか捕まえて避妊・去勢手術をしなければまた増えてしまいます。手なづけてとらえようと簡単な気持ちでいたら、おっとどっこい！ 相手はつわものぞろいの野良猫で、そう簡単にはつかまりません。

保健所への申請も通って手術の補助金も受けられる見通しなのに、2か月過ぎてもつかまえることができません。ナンデモ屋さんに頼んだら足元を見られるし、周りの人たちにまで文句を言われて一人で悩んでいたところ、ご近所の岩崎さんが助け船を出してくださり、手術を担当してくださるY動物病院の先生も、猫をつかまえたらいつでもつれてくるようにとお願いしました。

あとは猫の捕獲のみ。そんなときに野田さんからお電話をいただき、ゲージをお借りできることになったのでさっそく実行です。

3匹はあっけなくつかまり手術を完了したのですが、残った1匹がなかなかつかまりません。ところが、なんとという幸運！ 何年も野放しで、

餌のマナー

猫を保護するために毎日決めた場所に決めた時間に餌を置き、餌を食べる猫から離れたところにしゃがみこみ待つ。食べ終わったら掃除をする。餌を食べる猫との距離を少しずつ狭めて猫を安心させる。2～3週間位この行動で地域の方々も少しずつ理解をしようとしてくださいます。